

# 第56回九州高校女子ソフトボール大会

## 新型コロナウイルス感染拡大防止ガイドライン

※本ガイドラインは感染状況により変更する場合があります。

### 1【全参加者に関する注意事項】

- 1 大会参加者及びチーム関係者に本ガイドラインの周知徹底をはかるとともに、接触確認アプリ（COCOA）の積極的な活用について周知すること。

厚生労働省健康局

新型コロナウイルス接触確認アプリ COCOA



<Google Play>



<App Store>

- 2 大会参加者は、大会2週間前より健康状態の観察を行い、以下の項目に該当する場合は大会への参加を認めない
  - ① 新型コロナウイルス感染症に関する症状が、直前の14日以内に見られた場合。
    - ア 37.5℃を超える発熱
    - イ 咳、のどの痛みなど風邪の症状
    - ウ だるさ（倦怠感）・息苦しさ（呼吸困難）
    - エ 嗅覚や味覚の異常
    - オ 体が重く感じる・疲れやすい等
  - ② 生活を共にする家族等に新型コロナウイルス感染症に関する症状が直前の14日以内に見られた場合。
  - ③ 直前の14日以内に、新型コロナウイルス感染者や感染が疑われる人物と接触している場合。
- 3 直前の14日以内に、政府から入国制限、入国後の観察期間を必要とされている国、地域等への渡航又は当該在住者との濃厚接触がある場合。
- 4 マスクの着用を徹底すること。（プレー中の選手は例外とする。）
- 5 タオル・ペットボトル・コップ等の共用は避ける。
- 6 手洗い、うがい、マスク未着用時の咳エチケットの励行すること。
- 7 唾、痰を吐く行為を厳禁とする。
- 8 ゴミは各自持ち帰ること。

### 2【参加チームに関する注意点】

感染拡大防止のために以下の事項を遵守できない場合には、他の参加者の安全を確保する観点から、大会参加の取消や途中退場を求める場合があります。各チームの責任において選手・スタッフ等のチーム関係者の皆様に、本ガイドラインの周知徹底をお願いします

#### ①【事前準備の留意事項】

- 1 居住する都道府県の移動に関する方針や感染状況等に留意の上、大会参加に伴う感染リスクを考慮し、大会参加の判断を行うこと。  
特に、居住する地域が緊急事態宣言やまん延防止等重点措置の対象エリアとなっている場合は、緊急事態宣言等の趣旨を踏まえ、大会参加について慎重に検討し、対策等により感染リスクが回避できないと判断される場合は、大会への参加を控えること。
- 2 来場予定の大会参加者は、来場前に可能な限り、PCR検査や抗原検査など新型コロナウイルス感染症に関する検査を受検し、感染拡大リスク軽減にご協力をお願いします。  
※感染状況によっては、参加者に「ワクチン接種証明書」、「PCR検査陰性証明書」、「抗原検査陰性証明書」のいずれか一つの提示を求めることがある。
- 3 大会期間中に必要なマスク、消毒液等を持参し、感染予防対策を講じること。
- 4 移動に伴い、政府などが推奨する感染予防対策を徹底すること。

## ②【大会期間中の留意事項】

- 1 大会期間中、毎朝大会参加者全員の検温を実施した上で健康チェックシート(別紙)を作成し、会場到着後速やかに所定の場所へ提出すること。提出が無い場合は、大会への参加を認めない。体温が 37.5℃以上または体調不良等の選手についてはチームに帯同させず宿泊施設に待機させ、関係機関及び大会本部へ連絡すること。
- 2 事前にチーム内で保護者等観戦者の氏名、連絡先を把握し、接触確認アプリ(COCoA)の積極的な活用について周知すること。また、チーム関係者内で感染者が発生した場合には、速やかに関係機関に情報提供すること。
- 3 感染リスク軽減のため、競技会場到着から競技エリア入場までの間、施設内の一般利用者との接触回避を心がけること。
- 4 マスクの着用を徹底すること。(プレー中の選手は例外とする。)
- 5 常にフィジカルディスタンス(できるだけ2m、最低1m)を保つこと。
- 6 大会会場での滞在時間を極力減らすため必要以上の会場早着は避けること。
- 7 試合前の打順表最終確認の際は、可能な限りお互いの距離を取り、監督、審判の握手は行わない。
- 8 試合開始時の整列及び礼は、球審の集合準備の合図で両チームがベンチ前に整列し、その場で礼をして行う。試合終了時も同様の形態とする。
- 9 ベンチ内ではフィジカルディスタンスを保ち、マスクを着用すること。(特に声援や指示を出す場合)但し、ウォームアップや交代直後の選手など健康状態の維持に支障が出る場合はこの限りでない。
- 10 バット、ヘルメット、グローブ、打撃用手袋、ロジンバッグなどは各選手が使用し、可能な限り他の選手との共用を回避するように努め、共用せざるを得ない用具については、こまめに消毒・洗浄等を行うこと。
- 11 唾、痰を吐く行為を禁止とし、選手(特に投手)は指をなめてはいけない。
- 12 握手、ハグ、ハイタッチなどの身体的接触を避け、フィジカルディスタンスの確保できない円陣は控える。
- 13 監督、コーチが審判に近づく際は最低2mの距離を保つよう対人距離に注意する。
- 14 チーム内でのタオル・ペットボトル・コップ等の共用は避ける。
- 15 手洗い、手指消毒、マスク着用(プレー中など時の咳エチケットを励行する。)
- 16 試合終了後に球場移動がある場合は、自軍ベンチに設置のアルコール消毒液で使用した椅子や机等を消毒してから移動すること。
- 17 ベンチ入りしないチーム関係者においても、マスク着用やフィジカルディスタンスの確保など感染防止対策を徹底すること。また大声を出しての声援、メガホン、スティックバルーン等の道具を使用した応援はしないこと。
- 18 試合開始前の待機中においても、フィジカルディスタンスの確保やマスク着用など感染防止対策を徹底すること。特に食事や水分補給の際には、手洗い、消毒、黙食などの感染防止対策を徹底すること。
- 19 施設内における一般利用者と接触機械軽減のため、競技エリア外のトイレの使用は控えること。
- 20 競技会場での滞在時間をできる限り短くするため、試合終了後は速やかに会場を離れること。
- 21 チーム内で出たゴミは各自持ち帰ること。

## ③【その他の留意事項】

- 1 手洗いや3密の回避など基本的な感染防止対策のほか、各自で新しい生活様式を取り入れた感染防止対策を徹底してください。
- 2 特に飲酒を伴う懇親会や、大人数・長時間にわたる飲食等に代表される「感染リスクが高まる『5つの場面』」に該当する環境では、感染拡大のリスクが著しく高まるため、実施しないこと

〈感染防止対策 参考資料〉 (大分県新型コロナウイルス感染症サイトより)

大分県版「新しい生活様式」を実践しましょう



感染リスクが高まる『5つの場面』



- 3 宿舎や店舗などでの感染防止対策について、一般利用者との接触機会を限りなく軽減できるように各施設と協議の上、感染防止対策を講じること。
- 4 宿舎滞在中は接触機会軽減のため、競技会場と宿舎間での移動以外、極力外出を控えること。ただし、食事や必要物品の買い出しなどやむを得ない場合は、人数、時間など必要最小限に留め、感染リスクの軽減に努めること。

**【チーム内から発熱及び体調不良者が出た場合の対応について】**

- ① 大会期間中の検温で37.5℃以上の発熱及び体調不良の症状が発生した場合は、チームには帯同させず、宿泊施設等で待機させること。また「受診・相談センター」へ連絡し、医療機関受診に関する相談を行うこと。
- ② 「受診・相談センター」への相談の結果、医療機関を受診した場合は大会本部へ連絡するとともに、受診後の経過について適宜連絡すること
- ③ 医療機関で受診の結果、陽性反応が出た場合について
  - a) 感染者本人は医療機関等の指示に従う。
  - b) 濃厚接触者も宿泊施設等に待機し、関係機関等の指示に従う。

**新型コロナウイルスへの感染に不安がある場合の相談窓口**

大分県 受診・相談センター (24時間対応) TEL 097-506-2755

**3 【観戦者に関する注意事項】**

観戦を予定されている皆様におかれましては、1【全参加者に関する注意事項】を遵守するとともに、下記事項についてご協力をお願いします。

- 1 緊急事態宣言及びまん延防止等重点措置が発令された地域からの来場は認めない。
- 2 観戦を予定しているチーム関係者（選手の家族や学校）が観戦する場合はチームに観戦場所や時間を報告すること。また、接触確認アプリ（COCOA）を積極的に活用すること。
- 3 観戦時にはマスクを着用して観戦するとともに、観客席が「密」にならないように、一定の距離を保って観戦する。
- 4 大声を出しての応援やメガホン等を使用する応援は慎むこと。（飛沫感染リスク）
- 5 握手、ハグ、ハイタッチなどの身体的接触はしない。

※本ガイドラインは、日本スポーツ協会が発表した「スポーツイベントの再開に向けた感染拡大予防ガイドライン」の他、日本ソフトボール協会の「新型コロナウイルス感染症（COVID-19）におけるソフトボール活動の再開に向けた感染拡大予防ガイドライン」を参考に作成したものです。